

アートの導入による観光開発が住民に及ぼす影響とその要因 香川県直島の本村集落を事例として

正会員 ○ 黒木 桃子*
同 黒瀬 武史**

直島 観光 地域活性化

1. 研究の目的

本研究では、現代アートの導入による観光開発を実践する香川県直島の本村集落を対象とし、観光開発が始まってから現在までにおける、住民の意識変化や生活に及ぼす影響を把握し、今後の現代アートを媒体とした地域の観光地化を計画する際の示唆を得ることを目的とする。

2. 直島（島民）と外部資本との関係とその変化

村財政が逼迫し続けていた直島は、1916年、三菱合資会による精錬所を誘致した¹⁾。大正初期には2000人程であった人口が約10年間で7600人を超え、1954年には単独で町制を施行した⁴⁾。



図1 アート施設の分布

瀬戸内海が国立公園に指定された1934年を契機に、直島の観光開発が始まった。1961年には藤田観光を誘致、1966年に海水浴とキャンプの施設「無人島パラダイス」をオープンした¹⁾。岡山方面と直島町民に利用されていたが、中心施設の建設遅延と経済不況により、藤田観光事業は1987年に未完成のまま幕を閉じた。

同年、藤田観光と入れ替えるように福武書店²⁾を誘致し¹⁾、直島南部の3エリアにアートが点在された(図1)。施設建設にともない、観光客も増え続けている(図2)⁴⁾。

3. 本村集落の特徴と観光開発

ベネッセ事業の中でも、特に本村エリアは生活空間に展開する。漁業と廻船業で栄えた本村は、島の中心集落として発展した。当時の地割は現在の本村の地盤に残り、

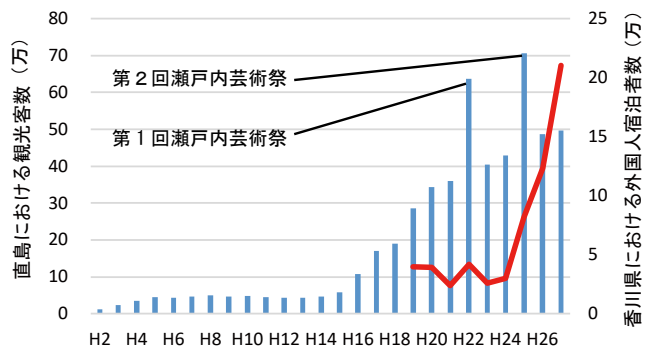


図2 直島の観光客数と香川県の外国人観光客数³⁾



図3 本村集落における住民と観光客が利用する施設の分布⁵⁾

表1 住民の意識調査 (網かけ: 住民視点から良い印象ではないもの)

年	出来事	人数	内訳	変化の内容
1953	簡易水道完成	2		2 井戸への水汲みの際の井戸端会議がなくなった
1966	無人島パラダイス開設	2		2 海水浴など、住民も楽しんでいた
1988	家プロジェクト開始 (角屋)	11		5 人が増えて賑わうようになった。静けさがなくなった 2 盗難や不法侵入などの被害が発生 2 人が増えて混雑するようになった 1 ゴミやたばこの吸殻が目立つようになった 1 観光客と交流が生まれた
1999	家プロジェクト (南寺)	1		1 以前の老人ホームや公園での集まりがなくなった
2001	スタンダード展開催	2		2 アーティストやボランティアなど若者との交流でアートに関心を持つようになった
2002	家プロジェクト (護王神社)	2		2 以前の護法善神社での集会など思い出があったが、今は興味が減った
2003	直島観光協会設立	1		1 ボランティアに参加するようになった
2004	地中美術館開館	3		2 人が増えて活気が出た。交流するようになった 1 車両の交通量が増え、騒音や汚染が気になるように。混雑し、危なくなった 1 地中美術館目的の観光客が増え、本村に来る人は減った
2006		4		2 ボランティアに参加、飲食店開業 1 不法侵入 1 観光客と交流するようになった
2009		6		6 観光客が増えたので、民宿・飲食店を始めた
2010	第1回瀬戸内国際芸術祭	46		8 車の交通量が増え混雑するようになった。時間帯を見て避けるようになった 6 家の前の花を手入れしたり、若者と話す機会が増えた 4 観光客の声や車やスーツケースの騒音、排気ガスが気になるようになった 4 観光客によるバス利用者が増え、住民の積み残しが発生するようになった 4 盗難や不法侵入などの被害もあり、玄関の施錠を徹底するようになった 3 島外から来た人による民宿や飲食店が増え、昔ながらの島の雰囲気が変わった 3 飲食店で、観光客向け 2 外国人観光客が見られるようになり、交流が難しくなった 2 公園にゴミが散乱したため、ゴミ箱を設置し、毎日処理するようになった 2 人が増えて道で話さなくなる 2 飲食店が増えたため、ランチ会をするようになった 1 国際交流するようになった 1 人が増えて静けさがなくなると家で落ちつかない 1 飲食店が増えたため、漁師は儲かるようになった 1 作品が増え、看板や案内も充実し、村裏まで来る人が減り、交流の機会が減った 1 人が増えて余裕がなくなり、自分の理想の営業スタイルが保てなくなる 1 以前のような静かな観光地ではなくなり、観光客とゆっくり話す余裕がなくなった
2013	第2回瀬戸内国際芸術祭	16		8 観光客の大半が外国人で交流は減った 4 レンタルサイクルが始まり、危険。車で通りにくくなった 2 ボランティア辞退 1 国際交流するようになった 1 店が忙しくなって、自分がやりたい経営スタイルが保てなくなった
2015	直島ホール完成	8		2 直島ホールは観光客向けで新築。気軽に立ち寄らなくなる
2016	本村港整備	6		6 観光客向けで新築。

低層住宅が密集した漁村集落である。住民間の日常的な交流も活発であり、現在も生港などの決まった場所で決まった時間に毎日集まっている（図3）。高齢化・人口減少が進む本村において、1998年に「家プロジェクト」が始まった⁵⁾。「コミュニティの文化や風習に新しい解釈を加えて、アートを軸にして町を再生すること」⁷⁾を目的とし、集落内の古民家などを、現代アートを取り入れて再生するというものだ。2013年には「ANDO MUSEUM」が開館⁵⁾、また観光客向けの民宿や飲食店も増えている。

4. 島民の意識変化・生活の変容

観光開発は本村にどのような影響を与え、それに対して住民の意識はどう変化し、対応したのかを明らかにするために、聞き取り調査を行った⁶⁾。何らかの変化は、家プロジェクト開始時の1988年、芸術祭が開催された2010年と2013年に集中している（表1）。更に集落内の環境変化によってもたらされた生活への影響・住民の意識変化と、それに対する対応を、特に回答が多かった2010年前後に着目して整理した（表2）。

集落に来島者が入りこみ、住民の生活に支障が生じているが、積極的な交流やのれんプロジェクトなど住民主体の活動、飲食店などの開業を行ってきた住民もいる。しかし、島内の展示作品が増えて観光客は慌ただしくなり、さらに近年増えている外国人とは意思疎通が難しい。このために、住民の観光に関わろうとする意欲が喪失している傾向にあり、その変化が顕著に現れたのは、観光客が急増した2010年の瀬戸内芸術祭以降である。

また来島者が膨大に増え、集落内の生活道路は見知らぬ人で溢れ、家の前や道路での住民同士の交流が困難になった。しかし、日常的な交流や、伝統的な八幡神社の祭礼は、島民全体で協力して毎年継続して行われている。

5. まとめ

直島は、精錬所の雇用創出によって人口が増え、また藤田観光による観光開発によって観光客が訪れ始めた時代を経て、ベネッセのアートを中心とした観光開発が展開されている。過疎化が進む本村集落に活力をもたらそうと、アートプロジェクトが実施され、実際に住民と来訪者との間に交流を生み出した。一方で、密集した漁村集落で生活してきた住民同士の長い付き合いが保たれているという地域性から、観光客の急増と質的变化の結果、集落の内部に展開される観光開発が住民生活に与える悪影響も大きくなってしまっている。誰にとっても完璧な観光開発は困難ではあるが、本村の地域性を踏まえた上で、住民の生活と観光の適切なバランスをもう一度検討する必要があるのではないかと。

【補注】

- (1) 参考文献2)で柴田は、直島町の製造業事業所の従業者1人当たりの現金給与額は県内第1位であることを指摘している。
- (2) 1995年に社名を「(株)ベネッセコーポレーション」に変更。
- (3) 参考文献3), 4)を参照し作成。
- (4) 香川県における外国人延べ宿泊数動態は、2010年に山があり、2013年に急増していることから、瀬戸内芸術祭が影響していると考えられ、この動態は直島における外国人観光客数動態に通じるものと判断する。
- (5) 参考文献6)に筆者加筆。
- (6) 本村集落に40年以上住む島民を対象とし、参考資料として自作の年表や統計資料、地図を用いた。内容は、「今までの本村集落の生活で変わったことはあるか、それはいつ何がきっかけで、どう変わったのか」というもので、有効回答数は36名で複数回答可として行った。

【参考文献】

- 1) 直島町史編纂委員会:直島町史, 直島町役場, 1990.9
- 2) 柴田 弘捷:銅製錬・アート・産廃処理の町・直島の現在－人口構成・産業構造・雇用環境－,専修大学社会科学研究所月報, Vol587-588, pp23-54, 2012.6
- 3) 直島観光協会:直島町観光客等入込数動態調査, 2016
- 4) 官公庁:宿泊旅行統計調査, <http://www.mlit.go.jp/kankochou/siryou/toukei/s-hukuhakutoukei.html>, 2016年11月28日閲覧
- 5) 福志聡一郎・安藤忠雄ほか:直島瀬戸内アートの楽園, 株式会社新潮社, 2011.8
- 6) ゼンリン:ゼンリン住宅地図.香川県.直島町 201503, 2015
- 7) 秋元雄史・江原久美子・逸見陽子:Remain in Naoshima, ベネッセコーポレーション, pp44-46, 2000

表2 観光開発に伴う本村の変化と住民の対応 (網かけ:住民視点から良い印象でないもの)

変化のきっかけ	状況・意識の変化 2000年代	対応 2000年代	状況・意識の変化 2010年以降	対応 2010年以降
護国神社や南寺が観光施設に 奥ゆかしさがなくなった	古かったので整備が必要だった	住民の意見を取り入れた ¹⁾		
	南寺の横の公園でゲートボールできない	立ち寄りなくなる		
民生会館や本村港の建て替え			新しく、綺麗になった	
			観光客向けでデザインが斬新	昔みたいに気軽に立ち寄りなくなる
来島者が増えた	賑わい、活気が出た	アーティストや観光客と積極的に交流	観光客とゆっくり向き合う余裕がなくなる	
	商売繁盛	飲食店や民宿を開業、ボランティア参加 アーティストや観光客と積極的に交流	自分のやりたい営業スタイルが保てなくなる	メディアや看板の制限、ボランティア辞退
	静けさが無くなり、家にも落ち着かない		混雑し、通れない	交通整備、時間帯や場所を避ける、家の前や道中で話さなくなる
車やレンタルサイクルが増えた	危ない、通れない	時間帯や場所を避けて通る	危ない、通れない	交通整備、時間帯や場所を避けて通る、注意をする
			騒音、汚染が気になる	
移住者による店舗が増えた			空き家を利用されること、移住者が増えることは良い	ランチ会で利用、移住者との交流
			昔ながらの島の雰囲気が変わった	忠告、あまりにもひどい場合は警察に相談
作品が増え、看板や案内も充実した			昔ながらの島の雰囲気が変わった	
			集落の奥まで来る人が減り、交流が減った	
不法侵入や盗難の発生、家を見られるようになった	観光客歓迎	積極的に交流、のれん、屋号、花の手入れ	不法侵入が増えた、落ち着かない	バトロール、施設、立ち入り禁止の表示
	落ち着かず、常に緊張感をもつようになった	施設の徹底、裏口の利用		バトロール、施設、立ち入り禁止の表示
ゴミが目立つようになった	吸殻や飲食関係のゴミが増えた	ゴミ箱設置・管理		
			吸殻や飲食関係のゴミが増えた	ゴミ拾い活動
バスの積み残しが発生			不便に、乗れども快適でない	町営バスを利用しなくなる。 町民専用バスができて、利用するようになり
			音がうるさい、バックが当たりそうになり危ない	
外国人が増えた			外国人歓迎	英語を覚えて積極的に国際交流、外国語の案内
			言語の壁があり交流機会が減る、カルチャーショック	自分から話しかけなくなる

*九州大学大学院人間環境学府 修士課程

**九州大学大学院人間環境学研究院 准教授・工博

*Graduate Student, Graduate School of Human Environment Studies, Kyushu University

** Associate Prof., Faculty of Human Environment Studies, Kyushu University, Dr.Eng